

平成23年度

徳島大学大学院先端技術科学教育部

博士後期課程

第2次学生募集要項

(一般入試・社会人特別入試)

入試関係日程

募集要項公表	10月中旬頃
入学資格の資格審査書類提出	11月4日(木)
障がいがある入学志願者の事前相談	11月4日(木)
出願期間	11月17日(水)から11月19日(金)
試験日	12月7日(火)
合格発表	12月24日(金)
入学手続	2月中旬手続書類送付 手続は3月上旬予定

問合せ先等

〒770-8506

徳島市南常三島町2-1

徳島大学工学部学務係

Tel 088-656-7315~7317

Fax 088-656-2158

<http://www.e.tokushima-u.ac.jp>

大学院先端技術科学教育部博士後期課程アドミッションポリシー

建設創造システム工学コース

生活・生産基盤施設、交通施設、防災施設、環境保全施設等の調査・解析・計画、設計・施工・運用システムおよび維持管理に関わる技術を研究するのに必要な基礎学力を持つ学生を求めています。

キーワード：●自然環境や公共空間に関する興味 ●数理解析や論理思考を伴う創造力
●チャレンジ精神と行動力

機械創造システム工学コース

機械工学に関する工学修士の学位または同等以上の学力を有し、機械工学に関する高度の専門知識と研究能力を求め、創造的技術者・研究者に成長したい優秀な学生を求めています。

キーワード：●機械工学への学術的創造力

化学機能創生コース

化学及び化学技術に関する新しい原理、方法、現象等の探究を通じてその成果を更に高度に発展させることに興味をもち、将来、国際的、学際的な研究プロジェクトの中核となることをめざす学生を求めています。

キーワード：●探究心、積極性、独創性、国際性

生命テクノサイエンスコース

生物工学技術者・研究者をめざし、本コースに強い入学意欲を持った向学心の旺盛な学生を求めています。

キーワード：●生命に対する深い興味 ●柔軟かつ独創的な発想 ●強い目的意識

エコシステム工学コース

自然・社会環境からなるエコシステムでの、エネルギー循環、環境低負荷、安全安心な社会環境、リスク管理、人間支援に関する技術開発や政策課題に取り組む強い意欲を持つ学生を求めています。

キーワード：●エコシステムに関する洞察力と探究心 ●国際性
●課題解決に対する自主性、独創性、チャレンジ精神

電気電子創生工学コース

電気電子工学に関する課題を、幅広い視野と論理的な思考で解決し、地域社会、国際社会に貢献できる技術者を育成するため、勉学に強い意欲を持った学生を求めています。

キーワード：●創造性に富んだチャレンジ精神 ●国際的なコミュニケーション能力
●チームでの課題解決能力

知能情報システム工学コース

知能情報工学の技術者としての標準的水準の能力を持ち、広い視野と自律的に行動できる能力を持つ国内外の社会に貢献できる人材を育成するために、基礎学力と旺盛な勉学意欲を持つ学生を求めています。

キーワード：●知能情報工学の専門知識と技術力 ●論理的分析・思考・表現・解決力
●自発的学習力と共同作業の協調力

光システム工学コース

高い専門能力と広い視野で、社会のリーダーとなり、また国際的なコミュニケーション能力を身につけた研究者・技術者を育成します。

キーワード：●創造的研究 ●国際的なコミュニケーション能力 ●感性が豊かで柔軟な発想

一般入試

1 募集人員

専攻	コース	募集人員	講座内容
知的力学システム工学専攻	建設創造システム工学コース	10名	建設構造工学 環境整備工学 社会基盤工学 社会システム工学
	機械創造システム工学コース		機械科学 機械システム 知能機械学 生産システム
環境創生工学専攻	化学機能創生コース	15名	物質合成化学 物質機能化学 化学プロセス工学
	生命テクノサイエンスコース		生物機能工学 生物反応工学
	エコシステム工学コース		資源循環工学 社会環境システム工学 海洋環境工学（連携講座）
システム創生工学専攻	電気電子創生工学コース	17名	物性デバイス 電気エネルギー 電気電子システム 知能電子回路 電気エネルギー（連携講座）
	知能情報システム工学コース		基礎情報工学 知能工学
	光システム工学コース		光機能材料 光情報システム

注）募集人員の中には、社会人特別選抜の若干人及び外国人留学生特別選抜の若干人を含みます。

2 出願資格

出願することができる者は、次のいずれか一つに該当する者としてします。

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者又は平成23年3月31日までに取得見込みの者
- (2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者又は平成23年3月31日までに取得見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履習し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者又は平成23年3月31日までに取得見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者又は平成23年3月31日までに授与される見込みの者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 本教育部において、個別の入学資格審査により上記(1)に規定する者と同等以上の学力があると認められた者で、平成23年3月31日までに24歳に達する者

出願資格(5)、(6)の認定について

- 1 出願資格(5)に定める「文部科学大臣の指定した者」の範囲は、次の①及び④の要件を満たす者であること。

出願資格(6)に定める「修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者」の範囲は、次の②又は③及び④の要件を満たす者であること。

- ① 大学を卒業し、又は学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者であること。
- ② 大学を卒業し、又は学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された後、科学・技術関係分野で2年以上の業務経験があること。
- ③ 短期大学、高等専門学校、専修学校及び各種学校の卒業後又はその他の教育施設の修了後、大学、企業及び公設の研究

所等において4年以上研究に従事するか、又は科学・技術関係分野で4年以上の業務経験があること。

- ④ 著書、学術論文、学術講演、学術報告及び特許等において修士学位論文と同等以上の価値があると認められる研究業績を有する者であること。
- 2 出願書類は、徳島大学大学院先端技術科学教育部において入学試験出願資格認定審査が終了するまで、その受理を保留します。

該当する志願者は、「最終学歴の卒業証明書」、「入学試験出願資格認定審査調書」（本教育部所定の用紙）及び「研究業績調書」（本教育部所定の用紙）に論文の別刷等を添付し、11月4日（木）までに工学部学務係に提出してください。

3 入学者の選抜方法

(1) 選抜方法

入学者の選抜は、コースにより筆記試験（英語）、口述試験及び書類審査の結果を総合して行います。

(2) 検査科目、試験日時及び場所

コース	1 2 月 7 日 (火)				場 所
	科目	時 間	科目	時 間	
建設創造システム工学コース	英語	9:00～11:00	口述試験	11:15～	徳島市南常三島町2-1 工学部講義室配置を参照
機械創造システム工学コース	英語	9:00～11:00	口述試験	11:15～	
化学機能創生コース	英語	9:00～11:00	口述試験	11:15～	
生命テクノサイエンスコース	英語	9:00～11:00	口述試験	11:15～	
エコシステム工学コース	英語	9:00～11:00	口述試験	11:15～	
電気電子創生工学コース	英 ^(注)		口述試験	11:15～	
知能情報システム工学コース	英語	9:00～11:00	口述試験	11:15～	
光システム工学コース			口述試験	11:15～	

(注)

- 筆記試験においては、試験開始後30分以上経過した遅刻者は、受験できません。
- 筆記試験においては、試験開始から終了まで退出は認めません。
- 口述試験の内容
口述試験は、志望する研究分野に関連する科目、修士論文（修士課程修了見込みの者については修士論文研究の進捗状況）、研究業績調書、研究計画書等の内容について行います。
- 口述試験の時間
口述試験の開始時間については希望指導教員より通知します。
- 電気電子創生工学コースの英語は、口述試験で行いますが、TOEIC又はTOEFLの成績通知書を提出した場合にはこれを免除することがあります。

4 障がいのある入学志願者との事前相談

受験上及び修学上で特別な配慮を必要とする場合は、次のとおり工学部学務係に申し出てください。

(1) 時期

平成22年11月4日（木）まで

(注) 特別措置等の方法を検討する必要がありますので、できるだけ早い時期に相談してください。

(2) 方法

次の①～⑦を記載した書類（様式は任意）を提出してください。

- 氏名、生年月日
- 志望専攻、コース
- 現住所、電話番号及び保護者の連絡先
- 障がいの種類、程度（後日、健康診断書の提出を依頼する場合があります。）
- 受験の際に特別な配慮を希望する事項及び内容
- 出身学校在学中にとられていた特別措置及び出身学校名
- 日常生活の状況等

5 出願手続

(1) 願書受付期間及び出願方法

① 願書受付期間

平成22年11月17日(水)から平成22年11月19日(金)17時まで(必着・郵送を含む。)

(受付時間: 9時~17時 ただし12時~13時を除く。)

② 出願方法

出願書類等は本募集要項添付の封筒を使用してください。

なお、郵送の際は、必ず「書留記録」としてください。

③ 提出先

〒770-8506 徳島市南常三島町2-1 徳島大学工学部学務係

電話 088-656-7315, 7317 Fax 088-656-2158

④ 募集要項の請求

願書を郵便で請求する場合は、あて名を明記し、390円切手を貼った返信用封筒(角2封筒33.2cm×24.0cm)を同封してください。

⑤ 出願手続き等に不明の点がある場合は、工学部学務係に照会してください。

(2) 出願書類等

書類等の種別	該当者	記入方法, 注意事項等
入学願書 受験票, 写真票	全員	所定の用紙に必要事項を記入してください。 受験票及び写真票には上半身, 脱帽, 正面向きで同一の写真(縦4cm×横3cm, 最近撮影した本人確認が可能なもの)をはってください。
修了(見込)証明書	本研究科又は本教育部 博士前期課程修了者又は 修了見込者	不要。
	上記以外	必要。出身大学長(研究科長)が作成した修士課程修了証明書。ただし、平成22年3月修了見込みの者は、修士課程修了見込み証明書が必要。
成績証明書 (学部及び大学院)	全員	出身大学(学部)長又は(研究科)長が作成し、厳封したもの。
修士学位論文要旨	全員	所定の用紙に、2,000字以内で記入してください。ただし、修士課程修了見込みの者は、修士論文の研究題目とその研究の進捗状況について要約したもの。なお、関連した論文の別刷又は学術講演、特許等がある場合は、そのコピーを添付してください。
研究業績調書	修士論文に関連したもの の他に研究業績を有する者	修士論文に関連したものの他に研究業績を有する者は、所定の用紙(本学生募集要項とじ込み)に、著書、学術論文、学術講演、学術報告、特許又は実用新案等社会における研究活動状況を示すものを記入してください。なお、関連した論文の別刷等の資料を添付してください。
研究計画書	全員	研究を希望するテーマあるいは分野について、その目的及び構想を、研究指導を希望する教員と相談の上、所定の用紙に、1,000字以内で記入してください。
推薦書	任意	所定の用紙に必要事項を記入した、原則として出身大学の指導教員が作成し、厳封したもの
TOEIC又はTOEFLの成績証明書	電気電子創生工学コースへの志願者(任意)	TOEICは"Official Score Certificate"(公式認定証)、TOEFLは"Examinee's Score Record"の原本を出願時に提出するものとし、団体受験用のTOEIC(IP)及びTOEFL(ITP)のスコアは受け付けません。

受験許可証	現に大学院博士後期課程に在職中の者	所定の用紙に所属長の許可を得て提出。
検定料払込証明書	下記以外	検定料は30,000円です。所定の用紙により、検定料を最寄りのゆうちょ銀行又は郵便局窓口から払い込んでください。ゆうちょ銀行又は郵便局で検定料振込時に受領した「検定料払込証明書(志願者用)」を「検定料払込証明書(本学所定)」にはって提出してください。
	本学研究科又は本学教育部の博士前期課程を修了し、引き続き本課程に進学する者又は外国人志願者のうち日本政府(文部科学省)国費留学生は不要。	
あて名票	全員	所定の用紙に必要事項を記入してください。
受験票送付用封筒	全員	所定の封筒に、受領する場所の郵便番号、住所、氏名を明記し、 350円分 の郵便切手を所定の箇所にはってください。

(注) 出願資格(5)、(6)に該当する者は、「修了証明書」、「大学院成績証明書」及び「修士学位論文要旨」を提出しなくてかまいません。また、「研究業績調書」も既に提出済のため、再提出しなくてかまいません。

(3) 出願に際しての注意

- ① 願書受付期間を過ぎて到着した出願書類は受理しません。郵送の場合は郵送期間を十分考慮のうえ、送付してください。
- ② 出願書類等に不備がある場合は、受理しません。また、出願後は、原則として記載事項の変更を認めません。
- ③ 出願書類を受け付けた受験者に対しては、後日試験室の案内とともに受験票を送付します。
- ④ 受理した出願書類及び入学検定料は、返還しません。
- ⑤ 出願書類に虚偽の記載をした者又はその他不正な事実が判明した者については、入学後であっても入学の許可を取り消すことがあります。
- ⑥ 出願後、「合格通知送付先」に変更があった場合には、速やかに連絡してください。

6 合格者の発表

合格者の受験番号を次のとおり発表するとともに、合格者あてに文書で通知します。
なお、電話等による合否の問い合わせには応じられません。

場 所	発 表 日 時	発 表 方 法
工 学 部	平成22年12月24日(金) 9時	・工学部正門掲示板にて掲示 ・工学部ホームページ(下記URL)にて掲載 http://www.e.tokushima-u.ac.jp/

入学許可の取消し

合格者が、入学手続き完了後に、見込まれていた入学資格を取得できなかった場合等には、入学許可を取り消します。

7 入学手続

入学手続の必要書類については、平成23年2月中旬に本人あてに通知します。

授業料等学生納付金

- (1) 入 学 料 **282,000円**

ただし、本学研究科又は本学教育部の博士前期課程を修了し、引き続き本課程に進学する者又は外国人志願者のうち日

本政府（文部科学省）国費留学生は不要。

- (2) 授業料 前期分 267,900円
年額 535,800円

ただし、外国人志願者で日本政府（文部科学省）国費留学生は不要。

(注1) 入学料及び授業料は現行の金額であり、改定されれば改定金額が適用されます。

(注2) 在学中に授業料改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

(注3) 授業料の納付については、希望により前期分の納付の際に、後期分も合わせて納付できます。

(注4) 入学料、授業料とも経済的理由により納付が困難であり、かつ、学業が優秀と認められる者又は風水害等の特別な事情がある者は、選考の上、全額又は半額の免除が認められる制度があります。

- (3) その他の経費として後援会費、工業会費（本工学部出身者は不要）、学生教育研究災害傷害保険料等若干の経費が必要です。

8 個人情報の取扱い

- (1) 出願書類等に記載された氏名、生年月日、その他の個人情報については次の目的をもって、本学が管理します。

① 入学者選抜、合格通知及び入学手続等の入試業務

② 合格者の入学後の教務関係（学籍管理、修学指導等）、学生支援関係（健康管理、奨学金援助、就職支援等）、授業料等に関する業務

- (2) 入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報は、入試結果の集計、分析及び入学者選抜方法の調査、研究（入試の改善や志願動向の調査、分析等）のために利用します。

社会人特別入試

1 募集人員

専攻	コース	募集人員	講座内容
知的力学システム工学専攻	建設創造システム工学コース	若干人	建設構造工学 環境整備工学 社会基盤工学 社会システム工学
	機械創造システム工学コース		機械科学 機械システム 知能機械学 生産システム
環境創生工学専攻	化学機能創生コース	若干人	物質合成化学 物質機能化学 化学プロセス工学
	生命テクノサイエンスコース		生物機能工学 生物反応工学
	エコシステム工学コース		資源循環工学 社会環境システム工学 海洋環境工学（連携講座）
システム創生工学専攻	電気電子創生工学コース	若干人	物性デバイス 電気エネルギー 電気電子システム 知能電子回路 電気エネルギー（連携講座）
	知能情報システム工学コース		基礎情報工学 知能工学
	光システム工学コース		光機能材料 光情報システム

2 出願資格

下記のいずれか一つに該当し、各種の研究機関、教育機関、企業等に正規職員として勤務している研究者又は技術者で、入学後もその身分を有し、所属長より推薦を受けた者

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者又は平成23年3月31日までに取得見込みの者
- (2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者又は平成23年3月31日までに取得見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履習し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者又は平成23年3月31日までに取得見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者又は平成23年3月31日までに授与される見込みの者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 本教育部において、個別の入学資格審査により上記(1)に規定する者と同等以上の学力があると認められた者で、平成23年3月31日までに24歳に達する者

出願資格(5)、(6)の認定について

- 1 出願資格(5)に定める「文部科学大臣の指定した者」の範囲は、次の①及び④の要件を満たす者であること。
出願資格(6)に定める「修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者」の範囲は、次の②又は③及び④の要件を満たす者であること。
 - ① 大学を卒業し、又は学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者であること。
 - ② 大学を卒業し、又は学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された後、科学・技術関係分野で2年以上の業務経験があること。

- ③ 短期大学，高等専門学校，専修学校及び各種学校の卒業後又はその他の教育施設の修了後，大学，企業及び公設の研究等において4年以上研究に従事するか，又は科学・技術関係分野で4年以上の業務経験があること。
 - ④ 著書，学術論文，学術講演，学術報告及び特許等において修士学位論文と同等以上の価値があると認められる研究業績を有する者であること。
- 2 出願書類は，徳島大学大学院先端技術科学教育部において入学試験出願資格認定審査が終了するまで，その受理を保留します。

該当する志願者は，「最終学歴の卒業証明書」及び「入学試験出願資格認定審査調書」（本教育部所定の用紙）及び「研究業績調書」（本教育部所定の用紙）に論文の別刷等を添付し，11月4日（木）までに工学部学務係に提出してください。

3 入学者の選抜方法

(1) 選抜方法

入学者の選抜は，口述試験及び書類審査の結果を総合して行います。

(2) 検査科目，試験日時及び場所

コース	12月7日（火）		場所
	科目	時間	
建設創造システム工学コース	口述試験	9:00～	徳島市南常三島町2-1 工学部講義室配置を参照 (試験室等については，希望指導教員から通知する。)
機械創造システム工学コース	口述試験	9:00～	
化学機能創生コース	口述試験	9:00～	
生命テクノサイエンスコース	口述試験	9:00～	
エコシステム工学コース	口述試験	9:00～	
電気電子創生工学コース	口述試験	9:00～	
知能情報システム工学コース	口述試験	9:00～	
光システム工学コース	口述試験	9:00～	

(注)

- 1 口述試験の内容
修士論文，研究業績調書，志望理由書，研究計画書等の内容について行います。
- 2 口述試験の時間及び試験室
口述試験の開始時間及び試験室については希望指導教員より通知します。

4 障がいのある入学志願者との事前相談

受験上及び修学上で特別な配慮を必要とする場合は，次のとおり工学部学務係に申し出てください。

(1) 時期

平成22年11月4日（木）まで

(注) 特別措置等の方法を検討する必要がありますので，できるだけ早い時期に相談してください。

(2) 方法

次の①～⑦に記載した書類（様式は任意）を提出してください。

- ① 氏名，生年月日
- ② 志望専攻，コース
- ③ 現住所，電話番号及び保護者の連絡先
- ④ 障がいの種類，程度（後日，健康診断書の提出を依頼する場合があります。）
- ⑤ 受験の際に特別な配慮を希望する事項及び内容
- ⑥ 出身学校在学中にとられていた特別措置及び出身学校名
- ⑦ 日常生活の状況等

5 出願手続

(1) 願書受付期間及び出願方法

① 願書受付期間

平成22年11月17日(水)から平成22年11月19日(金)17時まで(必着・郵送を含む。)

(受付時間：9時～17時 ただし12時～13時を除く。)

② 出願方法

出願書類等は本募集要項添付の封筒を使用してください。

なお、郵送の際は、必ず「書留記録」としてください。

③ 提出先

〒770-8506 徳島市南常三島町2-1 徳島大学工学部学務係

電話 088-656-7315～7317 Fax 088-656-2158

④ 募集要項の請求

願書を郵便で請求する場合は、あて名を明記し、390円切手を貼った返信用封筒(角2封筒33.2cm×24.0cm)を同封してください。

⑤ 出願手続き等に不明の点がある場合は、工学部学務係に照会してください。

(2) 出願書類等

書類等の種別	該当者	記入方法，注意事項等
入学願書票 受験票	全員	所定の用紙に必要事項を記入してください。 受験票及び写真票には上半身、脱帽、正面向きで同一の写真(縦4cm×横3cm、最近撮影した本人確認が可能なもの)をはってください。
修了証明書	本研究科・本教育部博士 前期課程修了者	不要。
	上記以外	必要。出身大学長(研究科長)が作成した修士課程修了証明書。
成績証明書 (学部及び大学院)	全員	出身大学(学部)長又は(研究科)長が作成し、厳封したもの。
修士学位論文要旨	全員	所定の用紙に、2,000字以内で記入してください。なお、関連した論文の別刷又は学術講演、特許等がある場合は、そのコピーを添付してください。
研究業績調書	修士論文に関連したものの他に研究業績を有する者	修士論文に関連したものの他に研究業績を有する者は、所定の用紙(本学生募集要項とじ込み)に、著書、学術論文、学術講演、学術報告、特許及び実用新案等社会における研究活動状況を示すものを記入してください。なお、関連した論文の別刷等の資料を添付してください。
研究計画書	全員	研究を希望するテーマあるいは分野について、その目的及び構想を、研究指導を希望する教員と相談の上、所定の用紙に、1,000字以内で記入してください。
推薦書	勤務先で所属長の職にある者以外	所定の用紙に、勤務先の所属長又はこれに準ずる者が作成し、厳封したもの。
志望理由書	全員	所定の用紙に、本教育部に入学し、勉学、研究を行いたいと考えた動機及び目的を、所定の用紙に、1,000字以内で記入してください。
受験許可証	勤務先で所属長の職にある者以外	所定の用紙に勤務先の所属長(又はこれに準ずる者)の許可を得て提出してください。
検定料払込証明書	全員	検定料は30,000円です。所定の用紙により、検定料を最寄りのゆうち

		よ銀行又は郵便局窓口から払い込んでください。ゆうちょ銀行又は郵便局で検定料振込時に受領した「検定料払込証明書（志願者用）」を「検定料払込証明書（本学所定）」にはって提出してください。
あ て 名 票	全 員	所定の用紙に必要事項を記入してください。
受験票送付用封筒	全 員	所定の封筒に、受領する場所の郵便番号、住所、氏名を明記し、 350 円分 の郵便切手を所定の箇所にはってください。

(注) 出願資格(5)、(6)に該当する者は、「修了証明書」、「大学院成績証明書」及び「修士学位论文要旨」を提出しな
くてかまいません。また、「研究業績調書」も既に提出済のため、再提出しなくてかまいません。

(3) 出願に際しての注意

- ① 願書受付期間を過ぎて到着した出願書類は受理しません。郵送の場合は郵送期間を十分考慮のうえ、送付してください。
- ② 出願書類等に不備がある場合は、受理しません。また、出願後は、原則として記載事項の変更を認めません。
- ③ 出願書類を受け付けた受験者に対しては、後日試験室の案内とともに受験票を送付します。
- ④ 受理した出願書類及び入学検定料は、返還しません。
- ⑤ 出願書類に虚偽の記載をした者及びその他不正な事実が判明した者については、入学後であっても入学の許可を取り消す
ことがあります。
- ⑥ 出願後、「合格通知送付先」に変更があった場合には、速やかに連絡してください。

6 合格者の発表

合格者の受験番号を次のとおり発表するとともに、合格者あてに文書で通知します。

なお、電話等による可否の問い合わせには応じられません。

場 所	発 表 日 時	発 表 方 法
工 学 部	平成22年12月24日(金) 9時	<ul style="list-style-type: none"> ・工学部正門掲示板にて掲示 ・工学部ホームページ（下記URL）にて掲載 http://www.e.tokushima-u.ac.jp/

入学許可の取消し

合格者が、入学手続き完了後に、見込まれていた入学資格を取得できなかった場合等には、入学許可を取り消します。

7 入学手続

入学手続の必要書類については、平成23年2月中旬に本人あてに通知します。

授業料等学生納付金

- (1) 入 学 料 **282,000円**
- (2) 授 業 料 前期分 **267,900円**
 年 額 **535,800円**

(注1) 入学料及び授業料は現行の金額であり、改定されれば改定金額が適用されます。

(注2) 在学中に授業料改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

(注3) 授業料の納付については、希望により前期分の納付の際に、後期分も合わせて納付できます。

(注4) 入学料、授業料とも経済的理由により納付が困難であり、かつ、学業が優秀と認められる者又は風水害等の特別な事情がある者は、選考の上、全額又は半額の免除が認められる制度があります。

- (3) その他の経費として後援会費、工業会費（本工学部出身者は不要）、学生教育研究災害傷害保険料等若干の経費が必要です。

8 個人情報の取扱い

- (1) 出願書類等に記載された氏名、生年月日、その他の個人情報については次の目的をもって、本学が管理します。

- ① 入学者選抜、合格通知及び入学手続等の入試業務
 - ② 合格者の入学後の教務関係（学籍管理、修学指導等）、学生支援関係（健康管理、奨学金援助、就職支援等）、授業料等に関する業務
- (2) 入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報は、入試結果の集計、分析及び入学者選抜方法の調査、研究（入試の改善や志願動向の調査、分析等）のために利用します。

9 学修と研究及び教育方法の特例について

学修と研究について

入学後は学則に定められた教育課程に基づき、原則として教育部担当教員の指導の下で、学修と研究に専念するものとします。

なお、入学後の身分（現職、休職）は、当該官公庁・企業等の定めるところによることとし、専攻・コースによっては、勤務地等が通学可能距離にある場合、昼夜開講等弾力的に対処する場合があります（下記の特例による教育参照）。また、博士論文を作成する場合、指導教員の許可を受け、かつ、その指導の下で、勤務先での研究課題を取り上げ、その設備、機器等を使用して研究を行うことも場合により可能です。

大学院設置基準第 14 条に定める教育方法の特例による教育について

通常、官公庁・企業等において勤務している社会人研究者・技術者が博士後期課程で学ぶ場合、3年間完全に勤務を離れ、学業に専念することになります。この修学条件を満たすことが難しい社会人学生に対しては、大学院設置基準第 14 条に「大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。」ことが規定されているため、この制度を利用して教育方法の特例を実施します。

長期履修学生制度について

学生が職業を有しているなどの事情により、通常の学生に比べて年間に修得できる単位数が限られるため、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する者に対して、申請に基づき、大学が審査し、その長期にわたる計画的な履修を認め、その在学期間中の授業料の負担を軽減することができる制度です。詳細は工学部学務係に照会してください。

(2) コースの概要

建設創造システム工学コース

社会の急速な高度情報化，国際化などに対応した，効率的な生産活動を可能にする国土を形成し，安全で安心・快適な生活環境ならびに居住環境を創造するためには，生産基盤，生活基盤などの社会資本やその運用システムを自然環境と調和させながら機能的，体系的に整備，拡充していくことが必要です。このような観点から，本コースでは，社会的，経済的，工学的な広い視野にもとづく生活・生産基盤施設，交通施設，防災施設，環境保全施設などの調査・計画，解析，設計・施工・運用システムおよび維持管理に関わる技術について研究・教育を行うことを目的としています。

本コースは，上記の目的を達成するために，担当教員が，建設構造工学，環境整備工学，社会基盤工学，社会システム工学の4講座に分かれて次のような研究課題に取り組んでいます。

講座名	概要	担当教員
建設構造工学	可視化手法によるコンクリート施工機械の高性能化 構造物の耐風設計・風災害・風環境に関する研究 都市の地震防災，道路橋の耐震設計・景観評価 風の利用・風況推定・構造物の空力振動に関する研究 建物と地盤の動的相互作用，入力地震動，地盤震動 コンクリートの非破壊検査，診断技術の開発	教授 橋本 親典 教授 長尾 文明 教授 成行 義文 准教授 野田 稔 准教授 三神 厚 准教授 渡邊 健
環境整備工学	沿岸域生態系の環境影響評価と沿岸防災に関する研究 地域生態系の保全・修復に関する研究 斜面災害の予知予測と対策技術に関する研究 山地森林流域からの雨水・物質流出機構の定量評価 河川生態系の保全・修復に関する研究	教授 中野 晋 教授 鎌田 磨人 准教授 蔣 景彩 准教授 田村 隆雄 准教授 河口 洋一
社会基盤工学	地盤防災，地盤と構造物の相互作用，地盤の多相系解析 地盤のメカニズム，地震動策定，森林砂防に関する研究 土構造物および基礎の信頼性設計に関する研究 地盤の変形と破壊に関する研究	教授 渦岡 良介 教授 大角 恒雄 准教授 鈴木 壽 准教授 上野 勝利
社会システム工学	安全，高齢者，身障者，環境に配慮した道路・交通の研究 無限精度数値シミュレーション 偏微分方程式に対する数値計算手法の研究 コンクリート構造の耐久性向上・評価，補修・補強技術 非線形放物型方程式の研究 非線形楕円型方程式の定性的研究 公共調達システムの研究	教授 山中 英生 教授 今井 仁司 教授 竹内 敏己 教授 上田 隆雄 准教授 香田 温人 准教授 深貝 暢良 准教授 滑川 達

機械創造システム工学コース

今日、科学・技術の飛躍的發展とともに、機械は、情報・エレクトロニクスなどの高付加価値を組み入れることによりメカトロニクス化し、利用者・製造者にとってますます身近な工業製品となり、社会生活の基盤としての地位を増大させています。今後は、原子・分子の超微細なオーダーから巨大構造物や生産システム・生活空間まで、人間に優しい機械技術のより一層の進展が期待されています。加えて、環境保全性を重視した技術、知力を付与したインテリジェンシーの高い技術や生体に学んだ機械技術いわゆる機械のバイオ化の発展がこれからの課題となっています。このように、機械工学の分野では、より広い視野に立ち境界領域にも進出できる創造性豊かな人材が必要とされています。

本コースは、こうした観点から機械科学講座、機械システム講座、知能機械学講座および生産システム講座の4大講座で構成されており、下記の概要に示されているような研究と教育を行っています。

講座名	概要	担当教員
機械科学	超音波信号評価によるガス漏れ検知技術の開発 環境に優しいエコマテリアルの開発 金属単結晶、双結晶を用いた結晶塑性と再結晶の研究 超音波による構造物の信頼性計測に関する研究 PC クラスタによる大規模シミュレーション	教授 吉田 憲一 教授 高木 均 教授 岡田 達也 准教授 西野 秀郎 准教授 大石 篤哉
機械システム	ターボ機械の内部流れの解明と高性能化に関する研究 熱交換器管群で発生する異音の原因究明とその対策 二酸化炭素地中隔離と多孔質内二相流に関する研究 レーザー計測技術を用いたエネルギー・環境機器の開発 小容量吸収冷凍機の実現をめざして 流体流れの層流から乱流への遷移の研究 小型流体機械の性能特性と内部流れに関する研究	教授 福富純一郎 教授 石原 国彦 教授 末包 哲也 教授 出口 祥啓 准教授 清田 正徳 講師 一宮 昌司 講師 重光 亨
知能機械学	自律運動制御のための画像認識 科学計測のためのインスルメンテーション アクティブ動吸振器による高層構造物の制振 塑性加工プロセスの計算機シミュレーション イメージスキャナを用いた立体形状計測 光造形を用いたマイクロマシンセンサの研究 電磁制御による非接触駆動法に関する研究	教授 小西 克信 教授 岩田 哲郎 教授 日野 順市 講師 長町 拓夫 講師 浮田 浩行 講師 三輪 昌史 講師 水谷 康弘
生産システム	電磁波を遮蔽・吸収するスマート材料開発 知的テラヘルツ計測およびレーザー生体計測に関する研究開発 粉末冶金・粉体加工による材料開発 協調的仮想空間指向ヒューマンインタフェースの研究 表面改質による機能性材料の開発 イオン結晶の電子状態とイオン拡散の研究 NMR と超音波による超イオン導電体の研究 PVD 薄膜形成と X線回折を用いた評価に関する研究	教授 村上 理一 教授 安井 武史 准教授 多田 吉宏 准教授 伊藤 照明 准教授 米倉 大介 准教授 道廣 嘉隆 講師 中村 浩一 講師 日下 一也

化学機能創生コース

本化学機能創生コースは、近年のめざましい技術革新のうち、各種物質材料の高度機能設計と合成、その基本的性質の解明および化学工業における合理的生産工程、装置の設計理論と応用等を指向する化学技術分野の研究・教育をめざします。

博士前期課程教育に引続き、それらをさらに充実・発展させるべく、次の3大講座が設けられています。

- 1 物質合成化学
- 2 物質機能化学
- 3 化学プロセス工学

講座名	概要	担当教員
物質合成化学	反応中間体及び新奇有機分子の構造と反応性 モデル的高分子の精密合成と特性解析に関する研究 流体および超臨界流体に関する研究 刺激応答材料などの機能性材料合成及び物性 重合反応の立体化学に関する研究 新規立体選択的反応開発と応用	教授 河村 保彦 教授 右手 浩一 教授 魚崎 泰弘 准教授 南川 慶二 准教授 平野 朋広 講師 西内 優騎
物質機能化学	高圧力下の微生物の挙動とその応用に関する研究 ソフトプロセスによるドラッグデリバリー材料化学 バイオセンサおよびバイオマテリアルに関する研究 タンパク質結晶およびコロイド結晶の研究 新規な高感度分析法の開発とその環境化学的応用	教授 田村 勝弘 教授 金崎 英二 准教授 安澤 幹人 講師 鈴木 良尚 講師 藪谷 智規
化学プロセス工学	高機能性触媒および環境浄化材料の開発研究 酸（窒）化物半導体・蛍光体の合成と結晶化学 無機多孔性材料を用いた分離プロセスの開発 マイクロ反応装置を利用した新規化学プロセスの開発 燃焼触媒および機能性材料の構造化学的研究 機能性多孔質材料の開発とその応用に関する研究 新規ナノ材料開発と高機能触媒開発への応用研究	教授 杉山 茂 教授 森賀 俊広 准教授 加藤 雅裕 准教授 外輪健一郎 講師 村井啓一郎 講師 堀河 俊英 講師 中川 敬三

生命テクノサイエンスコース

21世紀の人類が抱えるエネルギー、環境、医療、食糧などの諸問題の解決には、生物や生体分子が持つ優れた機能を応用するバイオテクノロジーが不可欠であり、高度な専門知識と技術を有する生物工学技術者が必要とされています。生物工学は、取扱う生物、生体分子が多様であるため、その分野も非常に広がっています。そのため本コースでは、生物反応工学と生物機能工学の2講座で編成し、微生物から哺乳類まで、また蛋白質、糖質、脂質、遺伝子などの生体分子および生体分子と作用する薬剤分子等に関する研究を行っています。生物工学の新技术創成には、新しい生体分子の発見、構造・機能の解析などの基礎研究の成果が必須であるため、基礎研究が重要視されているのが本コースの特徴です。講義は、生体熱力学、生化学特論、分子生物学特論、細胞生物学、生物物理化学特論、細胞生理学特論、微生物工学特論、分子機能工学、応用生物学特論、生物機能工学特論、酵素学特論、生物反応工学特論、分子生物学、生体高分子化学特論等が開講されています。

講座名	概要	担当教員
生物機能工学	両親媒性分子集合系の生物物理化学的研究	教授 松木 均
	低酸素医薬品の創製とがんメディシナルケミストリー	教授 堀 均
	セル&ティッシュエンジニアリングに関する研究	教授 大政 健史
	微生物毒素の機能研究とその医学・細胞工学的応用	教授 長宗 秀明
	プレニル化合物のイソプレノミクス解析と工学的応用	准教授 宇都 義浩
	微生物の異物排出ポンプと多剤耐性化機構に関する研究	准教授 間世田英明
	細菌の細胞内蛋白質の品質管理機構の解析	准教授 友安 俊文
脂質膜の構造特性に関する物理化学的研究	講師 玉井 伸岳	
生物反応工学	蛋白質の翻訳後修飾、活性制御に関する研究	教授 辻 明彦
	遺伝子に着目した生物の発生と進化のメカニズムの解明	教授 野地 澄晴
	生物資源の有効利用と生物的環境修復技術に関する研究	教授 中村 嘉利
	生理活性物質の器官形成（特に眼）における役割の研究	准教授 大内 淑代

エコシステム工学コース

21世紀を迎え、安全で豊かさの実感できる持続可能な社会環境の構築が国際的に強く望まれています。このためには多様な学問領域の知識をもとに、自然・社会環境問題を体系的に把握し、新しい技術を開発する独創性と豊かな創造力を有する高度技術者が必要とされています。

このような社会的要請を受け、本コースでは、人間をとりまく自然環境と社会環境の相互関係からなる系を「エコシステム」ととらえ、エコシステムでの物質循環の円滑化やエネルギーの有効利用、管理のための環境低負荷技術、および人間の健康と安全を脅かすリスクを管理するための政策策定や人間支援技術について教育、研究します。なお、本コースは、2基幹講座および連携研究所によって構成されています。

講座名	概要	担当教員
資源循環工学	マイクロ・ナノ光化学およびレーザー物質制御 ディーゼル排気物質の低減、ガス機関の開発 超短パルスレーザーを用いた微細加工技術の開発	教授 橋本 修一 教授 木戸口善行 准教授 松尾 繁樹
社会環境システム工学	都市・交通政策の環境影響評価、人口移動モデル 環境と災害を一体とした自然との共生を目指した研究 支援用具や福祉機器のインテリジェント化 都市環境形成のための交通現象解析と都市交通政策評価 沿岸環境に係る人為的影響の解明と共生システムの構築 細胞バイオメカニクスとその医工学応用	教授 近藤 光男 教授 上月 康則 教授 藤澤正一郎 准教授 奥嶋 政嗣 講師 山中 亮一 講師 佐藤 克也
海洋環境工学 (連携講座)	ナノ空間制御による特異的分離剤の開発 多孔性無機イオン交換体の開発および機能応用	客員教授 廣津 孝弘 客員准教授 槇田 洋二

電気電子創生工学コース

電気電子工学は、20世紀後半にみられるかつてない科学技術の進歩の中でその中心的役割を果たし、現在もなお急速に発展しつつある学問分野です。本コースは、電気電子工学を物性デバイス、電気エネルギー、電気電子システム、知能電子回路の4分野からなるものとみなし、それぞれに対応する4講座から構成されています。

「物性デバイス」講座は、電気・電子材料や半導体を中心とする電子デバイスの開発、「電気エネルギー」講座は、電気エネルギーの発生・変換・制御・輸送・利用方法、「電気電子システム」講座は、システムの制御・設計や各種情報の処理・通信方式、「知能電子回路」講座は、電子回路の設計・解析や計算機の知的ハードウェア・ソフトウェアの教育と研究を行います。

各講座の具体的研究テーマの概要は下表のとおりです。

講座名	概要	担当教員
物性デバイス	融合装置におけるプラズマ・壁相互作用の研究 III-V族光半導体デバイスの研究 無線電力伝送と窒化ガリウム系電子デバイスの研究 グラフェンの研究 薄膜化技術と酸化物・窒化物機能性薄膜の開発 GaN系光デバイス開発に関する研究 窒化物半導体結晶成長の研究 ワイドバンドギャップ半導体デバイスに関する研究 強相関電子系の磁性と超伝導の研究	教授 大宅 薫 教授 酒井 士郎 教授 大野 泰夫 教授 永瀬 雅夫 准教授 富永喜久雄 准教授 直井 美貴 准教授 西野 克志 准教授 敖 金平 講師 川崎 祐
電気エネルギー	パワーエレクトロニクスと新エネルギー・電動車応用 モータの高性能化と新構造モータの研究 パルスパワー応用と放電プラズマ応用、視環境設計 ロボット工学, 福祉制御工学, 自然エネルギー利用技術 電力機器診断のためのセンシング技術, 信号処理技術 現代及び次世代電力システムの解析と制御	教授 大西 徳生 教授 森田 郁朗 准教授 下村 直行 准教授 安野 卓 准教授 川田 昌武 准教授 北條 昌秀
電気電子システム	論理回路の設計とテスト 光信号処理, 光伝送及び光通信ネットワーク むだ時間を含む系, 分布定数系の制御 UWB通信及びインターネット情報通信 非線形回路工学, カオスの工学的応用 システム制御理論とその応用 保型形式の明示的研究 医用生体工学に関する研究	教授 橋爪 正樹 教授 高田 篤 教授 久保 智裕 教授 大家 隆弘 教授 西尾 芳文 准教授 大屋 英稔 准教授 水野 義紀 講師 芥川 正武
知能電子回路	高周波集積回路の研究 LSI レイアウト設計のCAD 技術に関する研究 VLSI の検査容易化設計に関する研究 動画像符号化アルゴリズム及びそのVLSI 設計	教授 小中 信典 教授 島本 隆 准教授 四柳 浩之 准教授 宋 天
電気エネルギー (連携講座)	電力エネルギーに関する研究 電力供給システムと自然エネルギーに関する研究	客員教授 川崎 憲介 客員准教授 瀧川 喜義

知能情報システム工学コース

現代社会は、工業化社会から高度情報化社会へ変貌しつつあります。この変革をもたらしたのは、半導体を中心とするエレクトロニクス技術とコンピュータハードウェア技術の急速な進歩です。ところが、先端技術の急速な発展に対応してコンピュータの普及は著しいですが、集積回路などのハードウェア技術に比較してソフトウェア技術の進歩が日本において特に遅れているのが現状です。しかし、高度情報化社会を形成するための高い知識を持つコンピュータ技術者は大幅に不足しており、人材養成が強く求められています。本コースはこれらの社会的要請に対応し、情報科学および情報産業に十分適応し、工業化社会とタイプを異にするソフトウェア技術、とりわけ知的情報処理技術に重点の置かれた情報科学の教育・研究を行なっています。

本コースは基礎情報工学講座および知能工学講座の2大講座で編成されており、言語理解と知識・知能工学、マルチメディア情報検索、知的情報処理、知能システムの創発的設計、大域情報通信網の効率と信頼性の解明、コンピュータビジョン及びパターン認識、Web プログラム開発技術、自然言語理解と感性情報処理、学習・教育システム、ソフトコンピューティングと信号処理などの研究教育を行なっています。

知能情報システム工学コースにおける2大講座の概要は以下のとおりです。

講座名	概要	担当教員
基礎情報工学	言語理解と知識・知能工学に関する研究	教授 任 福継
	マルチメディア情報検索に関する研究	教授 北 研二
	知能システムの創発的設計に関する研究	教授 小野 典彦
	大域情報通信網の効率、信頼性の解明に関する研究	教授 大濱 靖匡
	音声認識・理解を中心とした知能情報処理に関する研究	准教授 鈴木 基之
	マルチメディア情報検索技術に関する研究	准教授 獅々堀正幹
	コンピュータアーキテクチャ・ネットワークに関する研究	准教授 佐野 雅彦
	自律知能システムに関する研究	准教授 最上 義夫
	高信頼情報通信システムに関する研究	講師 得重 仁
パターン認識及びソフトコンピューティングに関する研究	講師 Stephen Karungaru	
知能工学	Web プログラム開発技術に関する研究	教授 下村 隆夫
	自然言語理解と感性情報処理に関する研究	教授 青江 順一
	学習・教育システムに関する研究	教授 矢野 米雄
	ソフトコンピューティングと信号処理に関する研究	教授 福見 稔
	非線形力学系の分岐問題と視覚化に関する研究	教授 上田 哲史
	画像処理、コンピュータビジョンに関する研究	教授 寺田 賢治
	システム同定および制御工学に関する研究	准教授 池田 建司
	自然言語処理と情報検索に関する研究	准教授 泓田 正雄
	学習・教育支援システムに関する研究	准教授 緒方 広明
	ソーシャルソフトウェアと身体知支援に関する研究	准教授 松浦 健二
	自然言語・知識処理に関する研究	講師 森田 和宏
	e-Learning システムおよび ICT 活用教育に関する研究	講師 光原 弘幸
ヒューマンインターフェイスでの生体計測に関する研究	講師 柏原 考爾	

光システム工学コース

近年、光子を用いて情報の入力、処理、伝送及び出力（表示）を行うフォトニクスが進歩はめざましく、20世紀の技術的発展の原動力になったエレクトロニクスの限界を、電子よりも高速で、電磁干渉が少ない光子を用いることによって着実に打破しています。

それゆえに、フォトニクスは21世紀を支える基盤技術の一つとみなされています。このことは、半導体レーザーと光ファイバーを基本的構成要素とする光ファイバー通信が、その通信容量において、マイクロ波通信や同軸ケーブルを用いる通信を圧倒的に凌駕していることから明らかです。

このようにフォトニクスはその将来に無限の可能性を秘めているが、それだけにその包含する技術内容は、極めて多岐にわたっています。様々な技術内容で21世紀を支える技術という観点から見ると、解決されるべき、あるいは実現が期待されている技術課題も非常に多いことが分かります。しかも、フォトニクスでは、個々の技術が複雑に絡み合った上に従来技術では得られなかった能力が発揮されています。

したがって、フォトニクスの各要素技術を別個に他と関係なく研究することは、非常に効率が悪く、材料、デバイスから装置、システムまで一貫した体系のもとに研究・教育を行って初めてフォトニクス技術全体を効率的に発展させることができます。

このような状況を考慮し、フォトニクスを真に21世紀を支える基盤技術として育成するために、フォトニクスを材料、デバイスから装置、システムまで一貫して研究することによりフォトニクスの工学的体系を確立し、教育するのが本教育部の光システム工学コースです。

光システム工学コースにおける2大講座の具体的研究テーマの概要は下表のとおりです。

講座名	概要	担当教員
光機能材料	機能性高分子の合成と特性化に関する研究	教授 田中 均
	強結合超伝導体の電子状態の研究	教授 岸本 豊
	ナノサイズ領域への光閉じ込めと応用に関する研究	教授 原口 雅宣
	ソフトマターの構造物性の研究	講師 森 篤史
	π 共役系分子の光・電子的性質に関する研究	講師 手塚 美彦
光情報システム	立体ディスプレイや映像情報システムの研究	教授 陶山 史朗
	医用イメージング、医用情報システムの研究	教授 仁木 登
	光通信や光情報ネットワークの研究	教授 後藤 信夫
	医用画像処理、知的画像診断支援システムの研究	准教授 河田 佳樹
	光コンピューティングによる情報インターフェイスの研究	講師 山本 裕紹

フロンティア研究センター寄附講座

フロンティア研究センターは研究の世界的研究拠点となることを目指す組織として、ソシオテクノサイエンス研究部に付置され、「ナノテクノロジー」、「人間情報工学」、「地圏環境エネルギー」の3研究部門8分野から構成されています。このうち、7分野は各コースの講座の担当教員が併任しているが、ナノマテリアルテクノロジー分野は、日亜化学工業の寄附講座で、センター専任教員によって担当されています。

この講座では、高度情報化社会を支える基盤技術としての先端的な「もの作り」技術の開発を基本理念にして、半導体ナノ構造の作製・その物性の計測評価・デバイス応用に関して一貫した研究を行っています。特に量子効果を使った高機能な高速光・電子デバイスを目指して、化合物半導体ナノ構造の結晶成長や、超短パルスレーザーによる超高速光学応答評価などに重点をおいて研究を進めています。本講座は先端技術科学教育部の各専攻・コースには属していませんが、ここで研究指導を受けることができます。（知能情報システム工学コース、建設創造システム工学コースを除きます）

講座名	概要	担当教員
ナノマテリアルテクノロジー 日亜寄附講座	ナノ半導体の光物性と光・電子デバイスの研究 ナノ半導体結晶成長と超高速デバイスの研究	教授 井須 俊郎 准教授 北田 貴弘

なお、希望学生は学務係に申し出ること。